



↑現在、再生可能で二酸化炭素などを排出しない「太陽光」「風力」「地熱」などの力を使った「自然エネルギー」が注目され、町内でも太陽光を利用する設備が備わった家が、年々増えてきています。

夏場の電力使用のうち、最も比率の高いエアコンの対策には日差しが室内に照り込むのを抑えるのが一番。「遮光カーテン」に変えたり、「よしず」を立てかけるなど、気軽にできることから始めましょう。朝顔やゴーヤの葉などを利用して「グリーンカーテン」なら、植物が水分を放出する「蒸散」効果で、さらに涼しく感じることができます。また、帰宅時にはすぐにエアコンをつけずに窓を開けて熱気を外に追い出してからつけましょう。他にも、右記に掲載しているように「不要な照明を消す」「長時間使わ

無理のない範囲内で習慣に暮らしの中の節電ワザ

Saving electric power & energy



緑のカーテンで節電の夏を乗り切る
Mutsuko Nakayama
中山 むつ子さん(弁城)

「緑を見るだけで涼を感じます」と話す中山さんは、4年ほど前から家の軒先に「緑のカーテン」などを使い、日中の部屋の温度を下げて、夏の暑さをしのいでいます。中山さんは高さ3メートル、幅1メートルに成長したゴーヤの緑のカーテンの手入れをしながら「趣味のガーデニングを楽しみながら節電できるので、簡単に始められました。緑のカーテンのおかげで真夏でも常時クーラーを使えばなしにはしていません」と話し、今年も真夏の節電対策を進めていました。

日本のエネルギー資源の96%を輸入に頼っていますが、天然ガスは約60年、石油はあと40年で使い切ってしまうといわれています。機器の主電源を切る」といった、電化製品の設定を変えたり、使用する時間帯をずらすことなど、ささいなことでも消費電力を減らすことにつながります。節電に慣れないうちは、意識して実行しないといけません。これを機に、何か一つでも「習慣」にすれば、後はその積み重ね。これを機に「これならできるかも」という節電技を身につけましょう。

小さなことからコツコツと地球にやさしいエコライフ

いわれています。これらの化石燃料は何千万年もかかってできたものなのに、人は作られた年月の何万倍もの早さで使っているのです。快適な生活を保ちつつ、エネルギー消費をできるだけ抑える今話題の「省エネ」。もちろん節電にもつながりますが、省エネは本来、電力不足に関係なく見直されるべきことです。目をそむけてあきらめるより、次代を担う子どもたちや家計、地球のためにできることから始めませんか。省エネや節電はコツコツと続けるのがコツです。エネルギーをただ消費するだけの生活はやめて、一人ひとりがこの問題と真剣に向き合い、自らのライフスタイルを見つめ直すときが訪れています。

節電の取り組み事例		節電効果	
		削減率	チェック
エアコン	・室温 28℃以上を心がける ※ 設定温度を2℃上げた場合	10%	<input type="checkbox"/>
	・「すだれ」や「よしず」などで窓からの日差しを和らげる ※ エアコンの節電になります	10%	<input type="checkbox"/>
	・無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する ※ 除湿運転やエアコンの頻繁なオン・オフは電力の増加になる場合があります	50%	<input type="checkbox"/>
冷蔵庫	・冷蔵庫の設定を「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込まない ※ 食品の傷みにご注意ください。	2%	<input type="checkbox"/>
照明	・不要な照明は消す	5%	<input type="checkbox"/>
テレビ	・省エネモードに設定し、画面の輝度を下げ、必要な時以外は消す ※ 標準から省エネモードに設定し、使用時間を2/3に減らした場合	2%	<input type="checkbox"/>
温水洗浄便座	・温水オフ機能、タイマー節電機能を利用する ・上記の機能がない場合、使わない時はコンセントからプラグを抜く	1%未満	<input type="checkbox"/>
ジャー炊飯器	・早朝にタイマー機能で1日分まとめて炊いて、冷蔵庫や冷凍庫に保存する	2%	<input type="checkbox"/>
待機電力	・リモコンの電源ではなく、本体の主電源を切る ・長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜く	2%	<input type="checkbox"/>

- 削減率の合計が無理のない範囲内で10%以上となるように、節電の協力をお願いします。
- 家庭には、他にも消費電力が大きい電気製品があります。平日の日中(13時から17時)を避けて使用する、あるいは使用する時間帯が重ならないように工夫するなど、ご協力をお願いします。
- 効果の記載値は、在宅家庭の昼間ピーク時の消費電力(14時:約1,200W)に対する削減率の目安です(資源エネルギー庁推計)。
- 上記の節電の取り組み事例と節電効果については、経済産業省「夏季の節電メニュー(ご家庭の皆様)」から抜粋しています。